

安威川ダム建設事業について（平成 15 年度再々評価時点との対比）

諸元と状況の主な変更点

1 治水機能

- ・「大阪府河川整備委員会」で治水の基本方針について審議済
- ・審議状況：平成 15 年 12 月～平成 17 年 10 月（継続中）

項目	再々評価（H15）	現時点（H17）	理由等
計画高水流量	（茨木川合流地点） ・760m ³ /s を 250m ³ /s にカット（510m ³ /s の洪水調節） （神崎川合流地点） ・1,750m ³ /s を 1,250m ³ /s にカット（500m ³ /s の洪水調節）	（茨木川合流地点） ・900m ³ /s を 250m ³ /s にカット（650m ³ /s の洪水調節） （神崎川合流地点） ・1,850m ³ /s を 1,250m ³ /s にカット（600m ³ /s の洪水調節）	・近年の降雨実績の反映 ・流出解析モデルに下水道計画を反映（内水域における雨水処理について、ポンプ排出による影響を反映）
ダムの規模 事業費 ダム高	約 1,400 億円 82.5m	約 1,370 億円 76.5m	・利水機能の縮小に伴う規模の縮小（諸元の詳細は精査中）
費用便益分析 （B/C）	5.65	4.94	・事業費の見直し ・利水機能の縮小に伴う治水と利水の事業費配分の変更
事業進捗状況 （事業費ベース）	用地 31% 工事 17%	用地 79% 工事 23%	・用地買収、代替宅地整備、付替道路などの生活再建事業の実施
上位計画	淀川水系工事実施基本計画	淀川水系工事実施基本計画 淀川水系神崎川ブロック河川整備計画（策定中）	・改正河川法（平成 9 年）に基づく整備計画の策定

2 利水機能

- ・「大阪府水道部経営・事業等評価委員会」で審議・意見具申
- ・審議状況：平成 16 年 3 月～平成 17 年 8 月

項目	再々評価 (H15)	現時点 (H17)	理由等
水需要予測 水源確保量	253 万 m ³ /日	231 万 m ³ /日	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の水需要実績等を踏まえ予測値を下方修正 (生活用使用水量・工場用水等の減少) ・10 年に 1 度の渇水に対応できるよう利水安全度を考慮
府の水源地計画 安威川ダムからの給水量	7 万 m ³ /日	1 万 m ³ /日	<ul style="list-style-type: none"> ・水源確保量の見直し (231 万 m³/日) 及び丹生ダム・大戸ダムの撤退に伴い、既得水量 (210 万 m³/日) を除く今後の水源確保量 (21 万 m³/日) の内訳は以下のとおり <ul style="list-style-type: none"> 臨海工業用水道企業団からの水源転用 12 万 m³/日 (確定済) 府工業用水道からの水源転用 7 万 m³/日 紀の川大堰 1 万 m³/日 安威川ダム 1 万 m³/日 ・平成 17 年度以降の府民負担が最小となり、既投資の有効活用、長期的な視点での安定供給、危機管理の効果を勘案して、水源計画を策定。 今回の水源計画の見直し内容は今後、「淀川水系における水資源開発基本計画 (淀川フルプラン)」に位置付ける予定。

3 自然環境対策

- ・「安威川ダム自然環境保全対策検討委員会」で審議
- ・審議状況：平成 14 年 5 月～平成 17 年 10 月

項目	再々評価 (H15)	現時点 (H17)	理由等
マスタープランの策定	-	「安威川ダム自然環境保全マスタープラン」を策定	今後、マスタープランにしたがって個別の取組を実施。ダムの規模縮小に伴うマスタープランの基本目標や実施方針への影響はない。